

## 各地での団体の取組み(6)



### 【標津町】

## 標津の森を守る会 ～未来遺産100年の森を目指して

〈標津町・ポー川史跡自然公園〉

報告者 大石 正則 氏

標津町は人口5,400人で、東の方角に北方領土・国後島などが見え、さらに知床連峰も見えます。私たちが取組んでいる森は、標津町・ポー川史跡自然公園内にあります。公園には、日本最大の竪穴遺跡群があり、1万年以上前の4,400軒の竪穴住居跡があります。これらが標津遺跡群を構成しています。

標津町にはサーモン科学館、ポー川史跡自然公園、マリナーパークなどがあります。最近、標津町はマリナーパークに力を入れて、ポー川史跡自然公園にあったキャンプ場もマリナーパーク内に移設しました。そのため、ポー川史跡自然公園が荒れ果ててしまいました。

私たちが取組んでいるのは、標津町伊茶仁57番地にある面積628haの森林です。オホーツク文化が栄えた後に、その子孫によって作られた竪穴式住居跡の「伊茶仁カリカウス遺跡」があります。

この場所には天然記念物の植物（ブルテと呼ばれるミズゴケ）があるために、自由に手入れが出来ないという規制がありますが、荒れ果てた森に可能な限り手を入れて、標津町民の憩いの場に復活させる取組みを行いました。

### 【活動事例】

まず行ったのは、倒木などを運び出すための作業道の確保です。それから子どもたちに森を楽しんでもらうために、森の生き物観察会を行いました。巣箱づくりを行い、それを木に掛けたりしました。また森の中で子どもたちが遊べる迷路を作るために、笹刈りを行いました。さらに森でポニー馬車に乗って遊べるようにしました。

みんなで楽しめる多目的ウッドデッキを作りました。倒木（樹齢200年のダケカンバ）の丸太を切って製材し、土台にしました。自然公園の中では穴を掘ったり、土を盛ったり、コンクリート等を使用することができないため、ログハウス方式の土台を作って組み立てました。デッキの背面には、音が逃げないように塀を建てました。

2回目の観察会では、森の果たす役割について学びました。ポー川史跡自然公園の学芸員を招いて講習会を実施しました。ウッドデッキの上でバードコールや鹿笛を作って吹いて楽しんでもらいました。

この日の午後は、東京からジャズ演奏者4名を呼んでコンサートを行いました。子どもたちが集まり一緒に演奏をして楽しく過ごしました。コンサートでは、本来は虫除けのために夜に利用する木の蠟燭をつくり、使用しました。こうした一連の活動は釧路新聞、北海道新聞に取り上げられました。

間伐材の搬出や遊歩道の作設なども行いました。北海道森と緑の会の事務局の方に、チェンソー安全研修会も実施していただきました。





多目的ウッドデッキづくり



チェーンソー講習会



森のコンサート



チェーンソーによる木道づくり

#### 【取組みの課題】

一連の作業や活動によって「標津の森を守る会」の活動が、標津町の住民に少しずつ理解されてきています。新聞に取り上げられたことが要因のひとつだと思います。

課題としては、広報がうまくいっていないことで、地域住民になかなか伝わらず、活動に参加してもらえません。

学校や教育委員会にも協力をお願いしていますが、パンフレットは受け取ってくれましたが、広報活動はしてもらえませんでした。最も助けてもらったのは子どもたちの父兄でした。コンサートの集客などにたいへん力になっていただきました。今後は、こうした広報の活動が必要ではないかと思いました。

資料を提供いただいたポー川史跡自然公園様にこの場を借りて御礼申し上げます。

若者・ばか者・よそ者が活発でないと町が活性化しないと言います。私たちの会は地元の方が多く、これからはもっと地元以外の方に参加していただくことで、より良い活動になると思っています。

#### 【質問】

Q.北海道と何か協定を結ばれているのですか。

A.自然公園は標津町の管理なので、町と協定を結んでおります。